特集　令和７年度版 中学校「道徳」

新しい『きみが いちばん ひかるとき』をお届けします

地球上に生命が誕生して以来、「いのち」はつながってきました。
つながる「いのち」の中で、唯一無二の、かけがえのない「いのち」をかがやかせるために、
光村図書は「道徳」の教科書作りに臨みます。
これからの時代を担う子どもたちの一人一人が、
自分の「いのち」を、自分の存在を、大切に思えること。
自分と同じように生きている他者を、大切に思えること。
みんなでいっしょに、よりよく生きていこうと思えること。
一人一人の、そんなひかりがかがやく思いをかなえようとする教科書。
それが『きみが いちばん ひかるとき』です。

光村図書が大切にした二つのこと

一人一人がかけがえのない存在

各学年のキャラクターにも個性をもたせました。

一人一人は、個性をもった唯一無二の存在。
それでありながら、みんな同じ「人間」でもある。
それぞれの違いに目を向けながらも、
他者を自分と同じ人間として大切にする。
いじめも、差別も、戦争も、
この思いがあれば解決に近づくのではないか。
そんな思いを込めて、教科書を編集しました。

1年 ユニット「共に生きるために大切なことは？」p.117-135

1年「11 みんなで成功させよう」てびき p.54-55

2年「道徳で大切にしたいこと」p.15

問い続けること。対話すること。

価値観や社会構造の変化、テクノロジーの進歩。
子どもたちが大人になる頃の社会は、今以上に予測できない大きな変化が起こるといわれています。
そんな時代を生き抜くために、そして、よりよい世界をつくるために必要なこととは？
人工知能にはできない、人間どうしだからこそできる、
問い合うことの意味や、話し合うことの価値を見いだせる教科書を目ざしました。